

学校だより



1か月にわたる臨時休校措置が解除され、静まり返っていた学校に子どもたちの元気な声に戻りました。みんなと一緒に学習に取り組むこと、友達と遊ぶこと、会話を楽しむこと、チャイムを守りながら活動することなど、当たり前だと思っていた学校の日常生活が、いかに大切に子どもたちの健やかな成長のために必要なことなのかということに気付かされました。そして、学校教育が担っている責任の大きさも再認識させられました。緊急事態宣言は解除されましたが、新型コロナウイルスの感染終息にはまだ時間がかかりそうです。治療薬もワクチンも開発されていない中で不安な状況は続きますが、学校では、感染防止対策と指導を今後も徹底していきたいと考えています。

また、臨時休校に伴い学習面についても心配されていることと思いますが、7月末までの1学期の延長や水泳学習の中止、行事や集会の中止や時間短縮等で生まれた時間を学習に充てるとともに、ICT機器の積極的な活用や指導方法の工夫によって計画的・効率的に学習を進め、遅れを取り戻したいと考えています。

うっとりしい梅雨の季節が近付き、カエルの合唱と共に実りの秋に向けての田植えも始まります。将来の世界中の歴史教科書に載るような大変な一年を歩んでいるわけですが、子どもたちにとって実りの春が迎えられるように全職員で頑張ってもらいますので、ご支援とご協力を引き続きよろしくお願いいたします。



【人権教育】

新型コロナウイルス感染者への差別や偏見、インターネット上での個人に対する誹謗中傷など世の中の人権問題が後を絶ちません。学校でも毎年人権教育を意図的・計画的に行っているところですが、友達に対して思いやりのない言動をとってしまう場面がまだまだ見られます。そこで今年も人権意識の高揚を図り、子どもたち一人一人が、「差別やいじめのない明るい学校」にしていくためにはどうすればよいかを考え、実践しようとする気持ちをもつことができるように、6月1日から6月12日の期間を校内人権週間として、様々な取組を行います。

- 学級のめあての作成と実践
- 何でも相談（児童の心配事や悩み等の把握）
- 友達がしてくれてうれしかったことをカードに記入して掲示
- なかよし遊び、友遊タイム
- 人権に関する授業（道徳や学級活動等）

資源回収のお願い

6月13日（土）

- ・回収時間 7:30～8:30
- ・回収品目

新聞、雑誌、段ボール、アルミ缶、スチール缶、鉄や銅などの金属類
ご協力をよろしくお願いいたします。

6月の生活目標「安全なくらしをする」

安全なくらしのためには、「自分の身は自分で守る」ことが第一です。火災・地震・交通事故・水難事故など、いつ・どこで起こるか分からない災害や事故に対しても、日頃から気を付けて生活することが大切です。命に関わることなので学校では繰り返し指導しますが、ご家庭でもよろしくお願いいたします。



【褒めずに叱らずに人を動かす】

有名な心理学者アルフレッド・アドラーは、「褒める」や「叱る」を否定し、「勇気づけ」を薦めています。褒められてやる子は、次第に褒められないとやらない子になり、叱られてやる子は、次第に叱られないとやらない子になる。アメとムチの指導の末路はだいたいこうになってしまうようで、親子だけでなく、あらゆる組織で言えることだそうです。しかし、褒めることも叱ることも必要です。大切なのは、もし褒めるとしたら、人柄を褒めること。もし叱るとしたら、行いを叱ることだそうです。何かを手伝ってほしいときに、「手伝って」と言われるよりも、「お手伝いができる人になって」と言われたときのほうが90%近く手伝う割合が増え、悪いことをしてほしくないときに、「悪いことをしないで」と言われるよりも、「悪いことをする人にはならないで」と人格に訴える言い方をした方が、悪いことをする被験者は半分に減ったという実験結果があるそうです。

つまり、褒めるや叱るよりもっと重要なのは、「勇気づけ」として、「ありがとう（感謝）」「うれしい（喜び）」「助かるよ（貢献感）」「だいすき（愛情）」などの言葉を伝えることだそうです。アドラーの言葉、『よくできたね』と褒めるのではなく、『ありがとう、助かったよ』と感謝を伝える。感謝される喜びを体験すれば、自ら進んで貢献を繰り返すだろう。感謝や喜び等を伝える「勇気づけ」を実践していきましょう。

